



小田原 平塚・修善寺・柏久保正教会だより

2024年1月1日発行 第256号



司祭 ディミトリイ 田中 仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX : 0465-22-2792 携帯 070-5079-3408

E-mail: holyspiritodawara@gmail.com

教団 HP: <http://www.orthodoxjapan.jp/>

小田原正教会 HP: <http://odawara-orthodox.com/>

2024年1月号

郵便振替口座(小田原): 00270-6-15226



寛忍なる救世主よ、

爾は我等の為に甘んじて

赤子と為りて、

無智の者の芻槽に置かれたり。

牧者は諸天使と偕に



爾を歌いて籲べり、

地に生まれて、地上の者の性を

神成せしハリストス我が神に、

光荣と讚美とは帰す。

降誕祭 早課 坐誦讚詞

降誕教会(ベツレヘム): ベツレヘムは現在パレスチナ自治区ベツレヘム県にある。降誕教会はイイスス ハリストスが生まれた洞穴の上に建てられた聖堂。初代の聖堂は西暦339年、ローマ帝国の支配下に建立された。主イイススが降誕した時代のベツレヘムは、ローマ帝国が任命したユダヤ地方の王イロドの支配下であった。早課の祈りの詞にあるように赤子の主イイススは「芻槽(家畜のエサ箱)に寝かされた。真の光である神が、あえて非力な人間の赤ん坊となって暗い場所に生まれて来られた。教会内の主イイススの降誕のイコンの下には星形の覗き穴があり、そこから馬小屋であった真つ暗な降誕の場所が見えるようになっている。降誕教会は2011年にユネスコ世界文化遺産に登録された。

●元旦感謝祈禱

1月2日(火) 11:00~11:45

●主の降誕祭 (十二大祭)

聖大ワシリイ聖体礼儀

前晩禱 1月6日(土) 17:00 / 聖体礼儀 1月7日(日) 10:00

使徒経:ガラティヤ 4:4-7 福音経:マトフェイ 2:1-12

●神現祭/主の洗礼祭 (十二大祭)

前晩禱 1月18日(木) 17:00 / 聖体礼儀 1月19日(金) 10:00

使徒経:テイト 2:11-14, 3:4-7 福音経:マトフェイ 3:13-17

●五旬祭後第33主日(8調)・大聖水式・月例パニヒダ

前晩禱 1月20日(土) 17:00 / 聖体礼儀 1月21日(日) 10:00

使徒経:エフェス 4:7-13 福音経:マトフェイ 4:12-17



1/21 聖水を持ち帰る方は容器をご持参ください。聖堂でも少しですが頒布します。1月の祭や祈禱の詳細は6ページをご覧ください。



主が歳の始めに私たちに賜る^{おんたく}恩澤に感謝して

管轄司祭 ディミトリイ 田中 仁一

世界に分断と対立が広がりつつあります。気候変動が私たちに悩ませ、これまでのように^{あんねい}安寧な未来を想像することが難しいと感じる人も少なくありません。

正教会は、主ハリストス^{かしら}を首とする一つの教会でありながら、非常に多様な文化的・歴史的背景の中で運営されています。ギリシャ、ロシア、ウクライナ、ルーマニア、そして日本というように、「正教会」の前に国名や民族名が付けられるのはそのためです。いつの時代も、正教会はハリストスの福音にある道徳的な言葉を社会の倫理と規範に置き換えようと忠実に努めてきました。神の誠めをその時の社会生活に沿わせるという「翻訳作業」です。これは整合性だけを考えたらずどこかに矛盾が生じる作業で、全く簡単ではありません。それでも、正教会は教会全体が世界の中で歴史を通じて蓄積してきた^{えいち}経験と叡知に頼りながら、時の経過とともに発展し続け、その伝統を豊かなものにしてきました。この「正教会の伝統」から、私たちは社会的・倫理的問題を考慮するための、いわば「^{みちしるべ}道標」を絶えず引き出しています。ゲオルギイ・フロロフスキイ神父の考察にもあるように、正教会が我々に与えてくれるのは『システムでなく、カギである。神の国の見取り図ではなく、そこに入るための方法』なのです。

私たちの時代における正教会は、多元主義や^{グローバルゼーション}物事の地球規模化、個人主義や世俗化という問題に対応する準備をしなければなりません。正教会がその統一性を保持できるのは、現代から目をそむけ、無批判に過去だけを見つめ、初代教会時代のキリスト教的秩序という化石化した感傷的な理想像に逃げ込んでいるからでしょうか。聖なる伝統は遺産ではありません。積極的に保管し、反復暗唱さえしていれば良いというものではありません。聖なる伝統は、単に過去の師父たちの言葉の記録ではなく、むしろその言葉が指し示す生き活きとしたダイナミックな現実のことです。五旬祭のときに使徒たちに降臨したあの^{せいしん}聖神の臨在が現代の私たちにもあることを教えてくれるのです。活きた聖なる伝統は、差し迫る様々な問題に対して私たちの意識を回復させ、内外からのあらゆる挑戦に対して私たちに自分たちを変容させる聖なる勇気を与えてくれます。それは議論によるものではありません。人となった言葉にならって「内側から」現代社会に話しかけること—十字架を背負ってその苦しみを理解しようと奮闘することによって、私たちは「人となりし言葉」の^{あかし}証を立てることができるのです。

正教会が何世紀にもわたって養ってきた洞察力は強く、際立っています。それは多様性の中の

一致としてもしばしば^{あらわ} 顕れました。これは現在でも社会倫理に関する議論に関わるときの原則になっているはずで、この社会的良識と至聖三者の教義との間には、はっきりとした相関関係があります。だからこそ私たちはあらゆる形態の^{さくしゅ} 搾取、不正、そして差別に反対する意識をもてるのです。

正教会に社会的展望があるとしたら、それは聖体機密から発出しているといえるでしょう。正教会の生活の中心は「神が人類になして下さった究極の自己犠牲に対して私たち人間が示す感謝と愛」です。それを形にしたものが聖体礼儀です。

正教会の境界はどこにあるのですか。国境ですか、民族ですか、言語ですか？この中心の辺境はどこにあるのですか？正教会は聖堂の壁を越えて聖体礼儀を永遠に共有しているのです。そのとき、全世界は一つの聖堂の祭壇となります。

目の前に迫る諸問題ばかりを見て、諦めてはいけません。神の国への「カギ」は私たちに与えられているのです。新年は来るべき神の国に向けての新しい旅路です。主が歳の始めに私たちに賜る^{おんたく} 恩澤に感謝し、聖体礼儀を^{いしづえ} 礎として、この一年を共に進み始めましょう。アミン。

最近の出来事・消息

小田原 生神女神堂祭 12月3日(日)10時から、暦から一日繰り上げて生神女進堂祭聖体礼儀が行われました。生神女マリヤは僅か3歳で神殿に預けられ、15歳まで神殿の中で暮らしました。当時15歳は成年とされ、神殿での独身生活を終えなくてはならなくなりました。そこで、くじ引きで当たった男^{おとこ} 寡^{やもめ} イオシフ(ヨセフ)がマリヤをいいなずけとして家に引き取ることになりました。こうした話はプロトエヴァンゲリオンという書物に印されています。生神女進堂祭はまさしく、福音の予兆を思わせるような祭です。

柏久保・修善寺 主日代式祈禱 12月9日(土)10時より、柏久保教会にて聖体礼儀の代式祈禱を行いました。その後信徒会館にて30分間、降誕祭に向けた聖歌練習を行いました。翌日10日(日)は修善寺教会にて代式祈禱を行いました。修善寺教会でも降誕祭のための聖歌練習を行いました。どちらの教会でもご祈禱後、学びと昼食と談話の楽しく有意義な時間を持ちました。お昼をご用意くださった、両教会の皆様方に感謝いたします。

横浜 降誕祭 12月23日(土)24日(日)に降誕祭を行いました。冬至直後のため、前晩禱の時間にはすっかり日が沈み、ロウソクの灯が照る中で晩堂大課が始まりました。翌朝、日曜日は穏やかな冬晴となり、聖堂は40数名の参拝者で満たされました。ご祈禱後は羔会館にてささやかな祝賀会を行い、しばらくの間、皆で用意した食事を囲みながら楽しい時間を持ちました。

■ 2023 年 11 月 23 日(祝)東京大主教区「教会代表者会議」に参加させて頂いた感想 修善寺ハリストス正教会 イオアン 山田 亨 執事長

本テーマ「教会の将来を考える」

討議項目が四つ有り、3 グループの班に分かれて、それぞれのテーマについて各教会からの代表者の方々と討議、意見交換を行いました。

私のグループのテーマは「地方教会の子女を都市部でどう把握するか」でした。洗礼を受けている二世三世の方々が実家から出て独立し、都市部又は遠方へ就職されていて、親の所属する教会又は就職先の土地に教会が有り、その教会に所属又は足を運ばれているか。なかなか難しい問題で、若い信徒の方達は教会に足を運ばないことに無理があるのでは、不可能に近い、という意見も出ました。これが現状であると共に押付けでは有りませんが親の教育もある程度必要な所もあるのではないかと思います。教会に出掛けていただけるか、魅力ある教会に、心開ける教会に、神父様とのコミュニケーションを一人一人が考えなければならない問題であると痛切に感じました。

参加された信徒の皆様のご意見は大変参考になり、勉強させられました。親の世代から子の世代へと、どの様に受け継いで頂けるか、各教会の一番の問題点である事を受け止めなければならないと痛切に感じました。

最後に各グループの進行役とお導きを頂きました神父様方に感謝申し上げます。

■ 東京大主教区「教会代表者会議」(テーマ：教会の将来を考える)に参加して 修善寺ハリストス正教会 ワルナワ 野田 幹太 執事

開催日：2023 年 11 月 23 日 (木・祝)

まず、山手教会の舩田神父様より

教会として「宣教」はイエス・ハリストス自らのご命令によるものであり、地域・時代を超え、避けて通れない課題である。また、集まることの大切さ、日常的な学びの大切さをコロナ禍で改めて感じさせられた。更に、「教会」は教えを学び、相互に交わり、聖体礼儀を行うことに熱心でなくてはならない。また、少子高齢化に伴う人口減少を考えると、在日外国人の信者受け入れ態勢も整えていく必要があり今後の課題である。との内容でお話がありました。

その後の班別討議では、①教会報を通じてのコミュニケーションのあり方②地方教会の子女を都市部でどう把握するか③停滞した教会活動の解決と回復④「その他」(他教会から得たい情報など)と課題が与えられ、熱のこもった討議が行われました。最後に「まとめ」が

教会代表者会議 レポート

として班別の発表が行われ、総評をいただき会議は終了となりました。

「宣教」とは？「教会」とは？教会の将来について考えさせられる一日となりました。私が強く印象に残っているのは、班別討議のなかで、大聖堂所属のイリナ大槻郁子姉より、昔、信徒の子供用に「教会の祈りとは？」「聖体礼儀とは？」などを分かりやすく教えるための絵本を作って配布したところ、その親御さんたちから「私たち（大人）が勉強になりました」と、感謝されたというエピソードです。

ここに何か宣教活動や、次の世代に祈りを引き継ぐヒントがあるような気がします。

■ 東京大主教教区「教会代表者会議」に参加して

小田原ハリストス正教会 ユリヤ 廣石 明美 執事

11月23日に東京大主教教区「教会代表者会議」に参加しました。

開会祈祷後、コンスタンティン梶田神父様より導入講話「宣教について」のお話を賜りました。

その後、参加者が3グループに分かれてワークが行われ、私は山手教会の梶田神父様、大聖堂教会の対中神父様、小田原教会の田中神父様とともに、大聖堂、山手、横浜、浜松、宇都宮、足利の代表者の方々と「教会報を通じてのコミュニケーションのあり方」と、少しの時間でしたが「地方教会の子女を都市部でどう把握するか」についての話し合いに参加しました。

「教会報を通じてのコミュニケーションのあり方」では、各教会の教会報の作り方や活用の仕方、たとえば信者の近況報告や永眠者に寄せる言葉を掲載する等、大きな教会も小さな教会も、ご苦労や工夫をされていることをお聞きしました。

小田原教会は、メール配信を開始したことをはじめ、田中神父様より、小田原・修善寺・横浜3教会の会報でありつつ、修善寺や横浜独自の情報も掲載していることなどを紹介いただきました。毎月の会報を神父様とマトシカにお任せしてしまっているな…と反省と感謝、そして申し訳ない気持ちになりました。

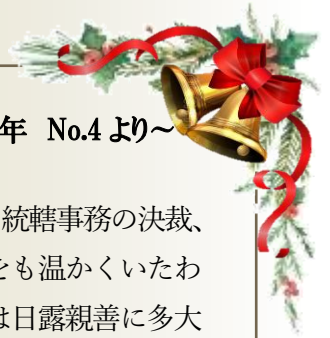
各教会の会報が信徒会館に置いてありますので、ぜひご参照ください。

「地方教会の子女を都市部でどう把握するか」については、世間の宗教問題や、異宗教からキリスト教に改宗した際の家族関係の難しさなどが話題になりましたが、時間が足りなかったため踏み込んだ話し合いができず、残念に思っています。

それぞれの教会独自や共通の問題は多々ありますが、他人事と思わず信者が積極的に議論に参加し、解決に向け活動することが必要であると思える代表者会議でした。

【2024年1月】小田原/平塚・修善寺/柏久保・横浜教会月間活動予定表

日	曜日	祈禱・行事・集会	主日・調・聖書の読み
1	月	[Y 横浜] *新年聖体礼儀 (10:00) 元旦	1/1 新年 使徒経: ティモ前2:1-7 福音経: ルカ 4:16-22
2	火	[O小田原] 新年感謝祈禱 (11:00)	
3	水		1/7 降誕祭 (十二大祭)
4	木		使徒経: ガラ4:4-7
5	金	[東京]	福音経: マト2:1-12
6	土	[O小田原] 祭日徹夜禱 (17:00)	聖大ワシリイ聖体礼儀
7	日	[O小田原] *祭日聖体礼儀・月例パニヒダ (10:00) [Y 横浜] 主日代式祈禱(10:00) 降誕祭(十二大祭)	●教会からのプレゼントを聖堂で配布します。
8	月		1/14 五旬祭後第32主日
9	火	成人の日	/主の割礼祭
10	水	[東京]	第7調
11	木	[東京]	使徒経: ティモ後4:5-8
12	金	[小田原]	福音経: マルコ1:1-8
13	土	[K 柏久保] 祭日晚課(17:00) [Y 横浜] 主日徹夜禱(17:00 G田中師)	●降誕祭 (十二大祭) 使徒経: ガラ4:4-7 福音経: マト2:1-12
14	日	[S修善寺]*修善寺・柏久保合同降誕祭聖体礼儀 (10:00) [Y 横浜] *主日聖体礼儀・月例パニヒダ (10:00 G田中師)	
15	月		1/19 神現祭 /主の洗礼祭
16	火	[東京]	(十二大祭)
17	水	[東京]	使徒経: ティト2:11-14, 3:4-7 福音経: マト3:13-17
18	木	[O小田原] 祭日徹夜禱 (17:00)	
19	金	[O小田原] *祭日聖体礼儀(10:00) 神現祭/主の洗礼祭(十二大祭)	1/21五旬祭後第33主日
20	土	[O小田原] 主日晚課 (17:00)	第8調
21	日	[O小田原] *主日聖体礼儀・大聖水式(10:00) [Y 横浜] 主日代式祈禱(10:00)	使徒経: エフェ4:7-13 福音経: マト4:12-17
22	月		1/28 五旬祭後第34主日
23	火	[東京]	第1調
24	水	[東京]	使徒経: コロ3:12-16
25	木	[東京]	福音経: ルカ18:18-27
26	金	[小田原/横浜]	●神現祭 (十二大祭)
27	土	[Y 横浜] 祭日徹夜禱 (17:00)	使徒経: ティト2:11-14, 3:4-7 福音経: マト3:13-17
28	日	[O小田原] 主日代式祈禱(10:00)・駐車場清掃 [Y 横浜] *祭日聖体礼儀・大聖水式(10:00)・執事会	
29	月		
30	火	[東京]	
31	水	[東京]	



ニコライ大主教を想う② ～横浜ハリストス正教会婦人会だより 1964年 No.4 より～

〔前月号からの続き〕 その日常生活は朝五時起床、夜中過ぎまで全口教会の統轄事務の決裁、指令等のかたわら、聖書と祈祷書の翻訳をされ、清貧に甘んずる教役者の家族をも温かくいたわり、己を持する事、厳しく、清い生活を送られたのであります。又、教会外では日露親善に多大な貢献を致されました。

河般のライシャワー事件で思い起こしましたが、明治二十四年に我国に、親善訪問されたロシヤ皇太子殿下を、警官津田三造が皇帝代理の国賓に対し斬りつけた事件の際、ニコライ師は日露両国の幹施の労をとられた結果、国難を救われた事はかくれた大きな功績であります。又、日露戦争の時ロシヤ人として只一人日本にふみ止まり、日夜両国の平和恢復を祈られ、宗教家として、堂々と貫禄を示されました。晩年、御病院のニコライ師は聖ルカ病院に入院中は、主治医から余命いくばくもない事を知らされると、中井先生を招き、祈祷書の原稿に、校正のペンを採られ、御臨終の間際まで、ご自分の責任を果たされた。立派な生活態度は、今も私達信者の胸を強く打つのであります。

明治四十五年、二月十六日の宵、ニコライ堂の鐘の音は、帝都の空に大主教の悲しき訃報を告げ、かくて、ニコライ師は偉大な足跡を、その愛する日本に残して遂に七十七才の幕を閉じられたのであります。

御臨終の際、私も神学生の一生徒として、まだ仄かに温かい師の御手に接吻して、異境に在って救霊のために闘い悔いなき御一生を終えられた尊師の安らかな温容を拝し、永久のお別れを惜しみ、巨星の落ちるが如き悲しみを味い、只茫然とするだけであったことを、今でもはっきりと思い起こします。明治天皇は、戸田侍従長を遣わされて、恩賜の花輪を師の御霊前供えられ外人宣教師に対して異例の事でありました。

ニコライ師の日本宣教開始以来、早くも一世紀は過ぎたのであります。今や我が正教会は、確かに曲り角に立っているという事は認めざるを得ないのであります。私達はこの転機に立ち、ニコライ師が身をもって教えられた正教精神を、新しい時代に生かして教会の再建を期し尊師によって示された方向に前進することが要請されているということを茲に確認致したいと存じます。

(1964年当時の小田原ハリストス正教会執事長 ロマン 中島 信一)

※原文の通り掲載しています。

代式祈祷の様子(小田原・修善寺) 代式祈祷は司祭不在の主日に信徒が主体となって行っている40分程度の祈祷です。



小田原

修善寺